

安中新田会所跡 旧植田家住宅だより



8月26日(水)
2009年(平成21年)
発行所
安中新田会所跡
旧植田家住宅
八尾市植松町1-1-25
(072) 992-5311
<http://www.kyudakejotaku.jp>

主な記事

- ① 八尾に新たな歴史名所
- ② 安中新田誕生
- ③ コンサートイベント「エド・パツハ」
- ④ 記念講演「大和川付替えと新田開発」

安中新田会所跡



江戸・明治期の名品ずらり

GW最終日の五月六日、安中新田会所跡旧植田家住宅がオープンした。旧植田家住宅は大和川付替えによって生まれた安中新田の会所であり、支配人の居宅でもあった建物。三〇〇年の永きにわたって守られてきた歴史が今、そのペールを脱いだ。

旧植田家住宅は、当時の会所敷敷を一部継承している建物で、土間部分に会所敷敷当時の姿を残し



門をくぐるとタイムスリップしたかのようなたたずまいが現れる

ていると考えられている。現在の敷地面積は四五〇坪と、会所敷敷が建てられた当時の三倍近い広さになっている。当初、会所機能しか持っていなかった場所に支配人を務めた植田家が移り住み、住居としての機能が追加されていった結果ではないかと考えている。

蔵一、土蔵二、控舎、井戸舎、神倉、展示棟(新設)がある。このうち、主屋と土蔵一は常設展示となっている。ここには主として生活器具類が展示されており、植田

家のからしを身近に知ることができるようになっていく。茶室やカマヤのカマドは実際に使えるように復元されており、今後、体験学習なども行なわれるようだ。

展示棟は収蔵庫と展示室・ギャラリーから構成されている。収蔵庫は非公開で、温度や湿度が管理されており、書画類・工芸品・河内木綿資料・書籍などの文化財が収蔵されている。展示室では収蔵資料のうち、貴重なものが展示されており、年間に数回、特別展や企画展を行なう予定だという。

*開館時間は午前九時から午後五時。火曜休館。電話/FAX(072) 992-5311

指定管理者はNPO法人HICALI

めざすは地域密着型エコミュージアムの中核施設

NPO法人HICALI(ひかり)は、二〇〇六年(平成一八年)一二月に設立された。「HICALI」の名称は、History「歴史」、Investigation「調査」、Culture「文化」、Art「芸術」、Library「資料」、Institution「団体」のキーワードに由来しているという。理事長の木村正二氏は「八尾の歴史・文化をより多くの人々に知っ

てもらい、次代へ伝えていきたいと思っています。郷土の貴重な文化遺産を次代を担う子供たちに継承するとともに、私たちの貴重な河内の歴史・地域・生活・文化芸術の発展とその視点に立った健全なまちづくり活動を、多くの方々のご支援とご協力を得ながら着実に拡充してゆきたいとスタッフ皆で取り組んでいます。」と語った。

旧植田家住宅より西へ約20Mご利用を、お待ちしております。

菓土風 桃林堂

- ◎本社・陌草園(山本南) Tel-072-923-0003
- ◎JR八尾店(淡川神社北) Tel-072-992-4649
- ◎西武店(八尾西武・地下1階) Tel-072-997-2650
- ◎東京・上野店(東京芸大前) Tel-03-3828-9826
- ◎東京・青山店(表参道) Tel-03-3400-8703

<http://www.torindo.co.jp/>

おいしいお茶は心を豊かにしてくれます。

深蒸し煎茶 芳水 100g 200g
季節の味わい 秋茶物語 100g
深蒸し煎茶 清緑 200g
暮らしのお茶からギフトまで

店主のおすすめ

おいしいお茶は専門店
龍華茶舗

〒581-0083 八尾市永畑町2丁目1-1
TEL 0120-19-1184
tel.0729-93-5673 fax.0729-23-5828

“りんごの木”は、障害をもつ人たちが、ひとつひとつ丁寧に縫製品や手織り品を作り働いています。

りんごの木
HOT CRAFT SHOP

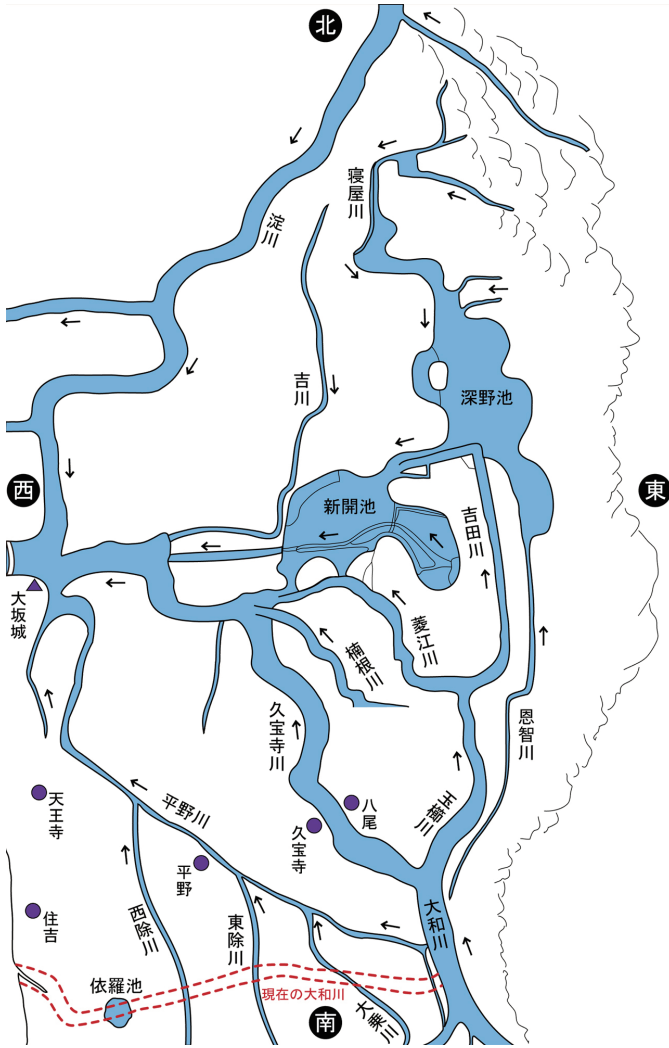
社会福祉法人 信貴福祉会
りんごの木

〒581-0868八尾市西山本町4-15-2
作業所/072-993-4330
ショップ/072-997-1440

安中新田誕生

絵図が語る新田

現在の淀川が百年前にできた人工の川であることは比較的知られているが、現在の大和川が三百年前に付替えられたことを知っている人はそれほど多くはない。かつての大和川は笠置山を水源に、奈良盆地の流れを集めて西へと流れ、生駒山のふもとから大坂へ入っていた。現在の柏原市のあたりで石川を合流した後、二俣で久宝寺川(現在の長瀬川)と玉櫛川(現在の玉串川)に分流。その後、玉櫛川は菱江川と吉田川に分かれ、吉田川は北へ流れて深野池・



付け替え以前の大和川水系。旧大和川が大坂市中全域に影響をおよぼしていたことがよくわかる

新開池へと流れ込む。そこから西へ向かい、久宝寺川と再び合流し、さらに、大坂城の東で平野川と合流し、淀川(現在の淀川)に流れ込んでいた。

このように、かつての大和川は今よりも淀川と密接なつながりを持っており、河村瑞賢は淀川を整備し、水の流れをよくすることに よって、大和川流域、ひいては大坂全体の水害を減らすことができると考えた。

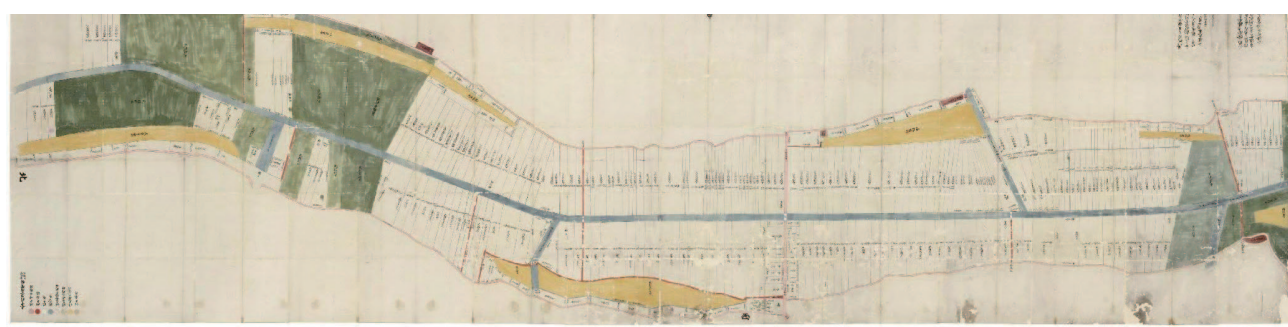
この考えを具体化して、貞享三年(一六八六)一回目、元禄二年(一六九九)に二回目の淀川の改修工事が河村瑞賢によって行なわれ、大坂の治水は完了したかに思われたが、翌年の元禄

一三年(一七〇〇)と元禄一四年(一七〇一)と二年続いて大水害が起こり、地域によっては農作物がまったくとれなくなるほどの大きな被害をおよぼした。このことがきっかけとなって、幕府が本腰を入れて動き、宝永元年(一七〇四)に旧大和川は現在の淀川へと付替えられることになった。

計画当初、三年はかかるといわれていた工事は、わずか八ヶ月で終わり、その後、水量が減り、川幅がせまくなった結果、川床であったところに新しく土地が生まれた。そこを農地として開発したのが「新田」と呼ばれる耕作地だ。その広さは旧大和川流域全体

で約一〇六〇町歩(約一〇五〇ヘクタール)。安中新田もそのひとつで、記録によると四七町一歩(約四十七ヘクタール)あったとされている。開発主体となったのは柏原にある安福寺や慈願寺のようなお寺のほか、老原や瓜破の人びとである。正徳元年(一七一二)に描かれた「安中新田分間絵図」はこの際の土地面積を記載した縮尺約三〇〇分の一の絵図で、およそ一・五メートル×六メートルという巨大なものになっている。絵図の中央下部には「会所屋敷」と書かれた部分があり、これが現在の旧植田家住宅の敷地の一部にあたる。絵図が描かれた当時、植田家はまだ会所屋敷には入っておら

河村瑞賢 江戸時代初期の豪商。幕府の土木工事の人夫頭になるなどして、資産を増やし、材木屋を営むようになり、明暦三年(一六五七年)、明暦の大火の際には、木曾 福島の材木を買い占め、土木・建築を請け負う事で、莫大な利益を得た。また、海運の発展に尽力し、貞享元年(一六八四年)には、淀川河口の治水工事を行い、安治川を開くなどし、全国各地で治水・灌漑・鉱山採掘・築港・開墾などの事業を実施した。



安中新田分間絵図 1間(180cm)を1分(3mm)で表したことから分間絵図と呼ばれる

ず、新田は道明寺村の庄屋・兵左衛門を中心運営されていたと考えられている。



安中新田会所跡旧植田家住宅の開館から初のコンサートイベントとなる「エド・パツハ」江戸とバツハの時代」が六月二三日(土)一八時より、旧植田家住宅にて行なわれた。イベントでは事前に申し込みのあった五三名の参加者が会場に集まり、約一時間のチェロとチェンバロの演奏に酔いしれた。

このイベントは、旧植田家住宅の指定管理者NPO法人HICALIによって企画されたもので、地元音楽家を招き、旧植田家住宅の建物を使った音楽会ができないかという想いから始まった。記念すべき第一回目となる今回は、元大阪フィルハーモニー交響楽団のチェロ奏者安藤信行さん(64)と奥様の安藤晴子さんを招き、チェロと

チェンバロによるアンサンブルやソロ演奏などが披露された。

コンサートは、一七〇四年の大和川付替えにちなんで同じ江戸時代を生きていた西洋の音楽家パツハに着目し、日本と西洋の歴史を音楽を通して体感しようというものの。開演前には旧植田家住宅の建物内を自由に見学でき、河内の歴



「あんぱぱ」でおなじみのチェロ奏者、安藤信行氏

史やくらしを学んだ後に音楽が染しめるようになっていく。定員は五〇名で、往復ハガキによる事前の申し込みが必要であったが、締め切り一週間前にはすでに「満員御礼」状態であった。コンサートは主屋の土間部分にステージが組み立てられ、参加者は座敷の上から鑑賞した。

HICALI理事長木村正二氏の挨拶に続き、八尾市長の一言を頂戴した後、安藤信行さんの軽快なおしゃべりとともにコンサートが開始された。今回演奏された曲は全七曲。J. S. バッハ(一六八五〜一七五〇)をはじめ、同時代の作曲家G. W. ヘンデル(一六八五〜一七五九)やマラン・マレー(一六五六〜一七二八)など、一七・一八世紀のバロック音楽が当時の西洋文化を偲ばせる。プログラムはチェンバロの紹介から始まり晴子さんのソロ演奏。二曲続けて演奏された二人の

マンジークン

安富士 暁



マンジークンはいつもかばんをもち歩いている



かばんの中には大和川付替えのロマンがたくさんつまっている



まんじークん、そのかばんの中に何入ってるの?



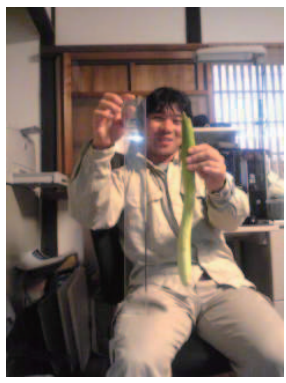
はいっ、詰ちゃん
ありがとう...
マンジークんは大阪人だった...

なにわの伝統野菜 栽培日記

アンサンブルでは、二台の楽器の響きが徐々に建物と一体となっていく様子が感じられた。今回のメインともいえる安藤信行さんソロのパツハ《無伴奏チェロ組曲第三番》は、およそ三〇分もの熱演であった。最後はパツハ「グノー《アヴェ・マリア》の演奏で会場は大きな拍手に包まれ、演奏会は成功裡に終了した。途中シークレットプログラムとして演奏された「文楽(黛俊郎作曲)」は、今回一番の人気であった。

昨今、古民家を利用した演奏会は多くみられるが、今回の「エド・パツハ」コンサートは、三〇〇年という歴史が感じられる、他では絶対に味わえないものであった。次回開催は未定だが、今後のイベントに大きな期待が寄せられる。

七月に入り、畑に植えられた野菜は最盛期を迎えており、毎日色鮮やかな瓜や南瓜が収穫されている。旧植田家住宅では、秋に郷土食の試食会を予定しているという。「もしかしたら、この畑で収穫された勝間南瓜も出されるかもしれません。」ということなので、興味のある方はお楽しみに。



旧植田家住宅の畑で収穫された毛馬胡瓜を手にする宮元学芸員

旧植田家住宅の庭の隅には二坪ほどの畑がつくられており、そこでは「なにわの伝統野菜」が育てられている。伝統野菜は(1)概ね一〇〇年前から大阪府内で栽培されてきた野菜。(2)苗、種子等の来歴が明らかで、大阪独自の品目、品種であり、栽培に供する

企画展 大和川付替えと 新田開発

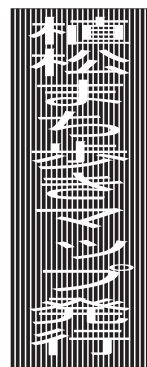
安中新田会所跡旧植田家住宅では七月一日(水)から八月二日(日)の間、「大和川付替えと新田開発」というテーマで企画展が行われ、安中新田分間絵図(複製、以下「分間絵図」)をはじめとした大和川付替え関連資料が展示された。分間絵図は壁面に展示され、大和川付替えと安中新田についての解説パネルとあいまって大和川付替えと安中新田の関係の深さがわかる。分間絵図は展示室の床に陶板画で常設されており、本企画展が終わった後でも見ることが出来る。分間絵図を囲むように旧植田家に伝わる河内木綿でできた消防法被が展示されていた。注目の展示は中甚兵衛の十代目にあたる中九兵衛氏から借用した甚兵衛の肖像画と裾に「水」と文字が染められている鹿革陣羽織であった。肖像画は出家後の八七歳のときの姿を描いたものであり、陣羽織は甚兵衛が大和川付替え工事の際に着ていたとされるものである。来館者から好評だったのが長瀬川・玉串川沿いのまちの今とむかしを、立体的に展示したオリジナルマップ

プと写真だった。来館者は、このオリジナルマップと写真のまわりを何度もまわって地域の史跡や昔の写真に見入っていた。

「大和川付替えと新田開発」の企画展を記念して、中九兵衛氏を講師に招き講演会が行われた。当時の大和川や近辺の川の状況をふまえながら、甚兵衛の一生、付替えを達成するまでの苦難の道のり、付替えにともなう工事の様子、付替えによる影響など、多くの話を聞く事ができた。最後の質問コーナーでは多くの参加者から質問があり、時間が足りないほどで、地域の歴史や文化をあらためて考える機会になった。



中甚兵衛の一〇代目の子孫、中九兵衛氏



八月二一日に「のんびり植松ぶらっとまっぶが」が発行された。(発行/植松のまちづくりを考える会、編集協力/NPO法人HIC A L I) この「まっぶ」には渋川神社や植松簷舎跡などの有名な史跡・名所だけでなく、民家の塀に描かれた絵や駅前の花壇などに身近な名所が載せられている。

この地図を片手に「まち」を散策してみると、いつもの風景の中に新しい発見があるに違いない。

「のんびり植松ぶらっとまっぶ」はJR八尾駅前通り商店街のほか市役所、「ミニミニセンター」、安中新田会所跡旧植田家住宅などで配布中。



休日はこの「まっぶ」を片手に地元を散策してみるのも楽しい

今後の予定

九月二日(水)～二〇月二六(月) 企画展「新田開発と人々くらし編」
九月五日(土)

記念講演「すまいが育てた日本の心」
講師 森 隆男氏(関西大学文学部教授)
九月二三日(水・祝)

河内木綿まつり
*糸つむぎ、縮くりなどの体験ができます
十月二五日(日)

渋川神社むかし遊び「チャンバラ教室」
十月二二日(土)

八尾再発見文学に見る八尾「今東光と八尾」
講師 伊東 健氏(今東光研究家)
*一〇月二八日(水)より今東光関連資料展開催
十一月二二日(土)

河内木綿体験講座

行事・展示に関するお問い合わせは、安中新田会所跡旧植田家住宅
(072-992-5311)まで。

*午前九時～午後五時・火曜休館

編集手帳

安中新田会所跡旧植田家住宅が開館して、早いものでもう3か月半がすぎました◆開館以来約三五〇名のかたに訪れていただいております◆嬉しい悲鳴を上げています◆これからも様ざまな取り組みを行なっていきますので、よろしくお願いたします。(み)

祝 発 行

JR八尾駅前商業協同組合

昭和の名残が、なつかしい商店街

